

カテゴリ10 (No129~No130)

その他

1~9に当てはまらない内容

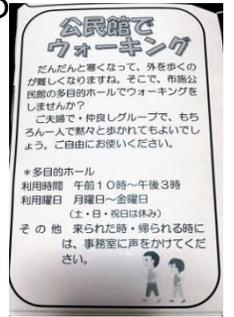
訪問リハ事例

No.129

地域を巻き込んだことで、活動・参加につながった

事例	83歳男性・要介護1・心房細動・陳旧性脳梗塞 生活歴：定年まで大型車両運転手、その後農業 本人希望：体調不安あるが転倒なく過ごす	経過	自宅にて致死性不整脈発症しAED蘇生し、ICU。 約2か月後にリハ目的で転院。約1か月後自宅退院となるが、5か月経過し体力低下が目立ち始め訪問リハ開始。
----	--	----	---

開始時の状態と活動・参加	実現したい生活目標（予後予測）	アプローチ後の活動・参加
開始時、左半身の不全麻痺に加え致死性不整脈再発に不安あり。また通所系サービスは利用したくないとの意向。活動範囲は独歩で自宅内。妻はまた倒れるのではと常に恐怖感を抱え、活動範囲も自宅周囲に拘束され、負担感を訴えていた。	農業など屋外作業をする。	初回訪問後、膝痛が軽快。約2か月後0.5Kg、更に2か月後には1Kgの負荷で筋力増強訓練を行えるようになる。半年で600m前後の散歩が可能に。また、軽作業なら手伝いをするようになる。7か月後には約1Kmの散歩が可能に。冬に向けて歩行できる場所確保のため公民館ホールの開放を妻を通して依頼・承諾を得る。今年1月から公民館での歩行を開始。
強み評価	リハアプローチ内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問リハ（週1回） 快適に散歩できるよう、可動域の改善、下肢を中心とした筋力増強訓練。 自主訓練として、ボルグ指数を用い「楽に歩ける」距離を毎日散歩し体力をつける。散歩時の万歩計使用を提案・承諾。（歩けることで成功体験となり意欲維持に貢献） ○生活指導 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「良くなって草刈がしたい」との意欲が強い ・地域的に結束力が強く、公民館にも近い立地条件 		



まとめ	本人の意欲と結束力が強いという地域性が公民館を巻き込んだ活動・参加につながった。ボルグ指数を用いることで、在宅での運動強度のコントロールはうまくいったが、作業では思いの外、活動されており強度のコントロールが周知できないこともあった。また、万歩計で客観的に成果を確認できたことも活動継続に効果的だったと考える。	分類 10
-----	--	----------

訪問リハ事例

No.130

ケアマネとの連携で漫然としたリハを見直し介護負担軽減となった

事例	55歳男性・要介護1・脳出血右片麻痺・高血圧 生活歴：海藻食品会社にてワカメなどの加工 本人希望：就労支援センター利用の再開	経過 高血圧、肥満、間食コントロールに課題。就労支援センター利用も、3年後再出血により利用中止。現在は訪問リハのみ利用(母親は本人の症状からストレス障害となる)
----	--	---

開始時の状態と活動・参加	実現したい生活目標（予後予測）	アプローチ後の活動・参加
杖歩行は可能で自主トレでは屋外歩行は行われるが、それ以外は自宅で過ごされ、じっとしていると間食をしてしまう。この状態が約10年ほど続く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中の運動量を出来るだけ確保する。 ・暇な時間を無くし生活の見直しをする。 ・担当者側：母親の負担軽減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所介護を利用し、運動量、時間が増加(暇な時間の減少)。また、本人の希望で、所有の福祉車両を運転し通所を利用。 ・他の利用者との交流が刺激となり、体調管理(自主トレ、間食面)を意識するようになった。 ・母親の精神的な負担軽減、友人との交流が増加(Zarit介護負担尺度での負担項目が軽減) 
強み評価	リハアプローチ内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・若い ・身の回りの動作はほぼ可能 ・母親の支援を受けられる状態 ・自動車の運転が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問リハと並行し、短時間型通所介護(週2回)を使用し、身体面の向上、運動量を増やし、他の利用者との交流を図る。母親の介護負担、精神的ストレスを軽減させ、母親の時間を有効活用してもらう。  	

まとめ	漫然とした在宅サービスから通所の利用を開始することで、利用者の意識のみでなく、ケアマネを含め、サービス担当者の意識改革にも繋がった。更に母親の精神面での安定、介護負担の軽減が図れた。活動量、意欲向上は図れたが、まだ具体的な活動・参加には至っていないことは今後の課題である。母親の訴えやケアマネとの密な連携が、在宅から通所へと利用者の気持ちを後押ししたものと考えられる。	分類 10
-----	--	----------